

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピースマイル 本店		
○保護者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小児経験が豊富な作業療法士・言語聴覚士による訪問支援を実施できている点	園・学校が主であり、私達は指導するような立場ではないため、様々な視点からアドバイス・助言、相談にのるといった立場をしっかりと理解して行動している	園や学校の流れ・考え方をそれぞれに合わせて対応できるように関わっていく
2	言語聴覚士は多市にわたる園・学校のアドバイザーでもあり、様々な相談にもなる事が出来る。 作業療法士も様々な研修での発表・文献登録をしているスタッフであり、様々な視点からのアイデアを持っている	目的を明確にし、保護者と連携しつつ進めている。 決して勉強が出来るようになるなどといった目的ではなく、その子が過ごしやすくなり、楽しく生活が出来ることを優先する	目的の共有を言語化し、保護者様にもしっかりと納得していただけるように説明を行う。 今回のアンケートより1名の方が事業理解が難しいとのご意見もあったため、しっかりと説明を再度行う。
3	保護者様・園や学校との懸け橋となり、子ども真ん中の考えで関わる大切さを強みとしている。	療育・発達分野での知識と先生方の教育を融合させどちらかを強めるのではなく、その子のためにという考え方をしている	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内の事業でセラピストが個別療育を行うことから、訪問スタッフが限られるため、対応できるお子様に制限が出る	制度の問題ともかかわるが、訪問支援を希望する方に対して、園や学校と連携を始める1歩目に時間を要し、必要な療育を届ける事が遅くなったり、余計に保護者に迷惑をかけることがある。 社会全体を見ても、この問題は国を巻き込み取り組んでもらいたい。	現状をしっかりと行政と連携し、打開策を考えていく
2	学校に対して、他子に対するプライバシーの問題などに対して、どうしても事業所としての説明・依頼では弱い	訪問支援のメリットはとても大きいですが、訪問支援を行っていない他子に対する配慮の方法が難しい	園や学校の先生方に長時間を要さずに話し合いが行える工夫を継続して参ります。
3	先生方の時間を考慮したうえで予定調整の際に、お互いの予定を合わせる事が難しい	園・学校と訪問をするタイミングの固定化を検討していく	始めたばかりの事業なので、しっかりと形作りを行政と共に進めていく